



三浦 義光 議員
無会派

問 これからの市内行事は

答 主体的な地域づくり活動に

○コロナ明けの市内行事について以下を問う。

問 秋の行事を一つにまとめてできないか。

答 **副市長** 各実行委員会等で協議を経て開催されている。駐車場など様々な課題もあり難しい。

問 次年度の、各学区コミュニティ行事予定は。

答 **市民協働課長** 各コミュニティ推進協議会で決定されるため把握していない。

問 本年度、各自主防災活動は戻っているか。

答 **防災課長** 防災訓練は令和4年度17件、5年度12月1日現在で21件。

防災出前講座は令和4年度4件、5年度12月1日現在で6件。

問 地縁団体になっている自治会の数は。

答 **市民協働課長** 自治会数は77団体で、そのうち48団体が認可地縁団体。



問 協働のまちづくり講演会が開催された経緯は。

答 自治研修協会の講演を広聴した上で応募し、採択された。講師は協会を通じて依頼した。

問 自治会入会相談はあるか。

答 **市民生活部長** 電話や窓口で月に数件あり、区長や区長補助員からもある。

問 学区別自治会加入率は。

答 約87%。

問 市長総括を。

答 **市長** 参加者だけでなく役員も一緒に楽しめるような、主体的な地域づくり活動を支援していく。



▲市内稲作風景

問 新たな農業問題の早期解決を

答 カメムシ被害は関係機関と対策

問 免税事業者が市へ相談に訪れることはあるか。

答 **建設部長** 農業者からの問い合わせは無い。

問 令和5年夏の、カメムシ大発生による各地区別の被害状況把握は。

答 すべての地区において米の収量が少ない。「コシヒカリ」や「あいちのかおり」は3割半ばに近い最大減収率となる被害が発生している。



▲カメムシ被害の米

問 次年度に向けて防除対策は。

答 共同防除事業の補助を継続する。市民には、カメムシの越冬場所である草の除草の働きかけをし、対策を図っていく。

問 市長見解を。

答 **市長** この状況が今後も続くことになれば、地域の水田、農業の衰退を招く恐れがあると考えており、1日でも早くカメムシに対する防除対策を図る。関係機関とともに対策できることを行っていく。